

## 施 肥（作物別施肥基準）

### 1. 水稻の施肥

#### 1) 品種別施肥基準

(kg / 10 a)

品 種	窒 素		穂 肥	計	リン 酸 (全量基肥)	カ リ
	基 肥	つなぎ肥				
コシヒカリ	1.5 ~ 2.5	-	1.5 ~ 2.5	4 ~ 5	5 ~ 8	5 ~ 7
平坦部						
中山間～山間部	2 ~ 3	-	2 ~ 3	5 ~ 6		
ハナエチゼン	3 ~ 4	-	3 ~ 4	6 ~ 8	5 ~ 8	5 ~ 7
きぬむすめ	3 ~ 4	(1)	3 ~ 4	6 ~ 8	5 ~ 8	5 ~ 7

注) 1. 詳細は稲作指導指針を参照する。

2. 「きぬむすめ」のつなぎ肥は、7月第1半旬頃に茎数が少なく葉色が薄ければ、窒素を1 kg / 10 a程度施用する。

3. 穂肥は必ず分施する。葉色が濃すぎるか茎数過多の場合は品質を悪化させないため、施用しないか出穂15日前の1回施用にとどめることもある。

1回目の穂肥は、「ハナエチゼン」では25日前を標準とし、茎数が多い、草丈がやや高い、葉色がやや濃いといった場合は20～18日前に施用する。「コシヒカリ」, 「きぬむすめ」は原則として出穂20日前とする。2回目は1回目の10日後に施用する。

### 2. 畑作物の施肥

#### (1) 小麦・ビール麦

(kg / 10a)

成 分	基 肥	追 肥		計
		1回	2回	
窒 素	6 ~ 8	2 ~ 3	1 ~ 2	9 ~ 13
リン 酸	8 ~ 10	-	-	8 ~ 10
カ リ	8	-	2	10

注) (1) 追肥は1回目を1月頃、2回目(穂肥)を2月下旬～3月上旬に施用する。

(2) 出穂期以降に施す実肥は、施肥量が不足した場合に急急に、窒素成分で1 kg / 10 a以内を施用する。

#### (2) 大豆

(kg / 10a)

成 分	基 肥	追 肥		計
		1回	2回	
窒 素	2 ~ 3	-	-	2 ~ 3
リン 酸	8 ~ 10	-	-	8 ~ 10
カ リ	8 ~ 10	-	-	8 ~ 10

注) (1) 7月中～下旬播種や特に高収量を狙う場合で追肥する時は、開花期頃に5～10kg / 10 aの窒素を追肥する。

### 3. 野菜の施肥

#### (1) トマト

半促成栽培 (kg / 10 a)

成分	基肥	追肥	計
窒素	12 ~ 15	12 ~ 15	24 ~ 30
リン酸	18 ~ 22	-	18 ~ 22
カリ	12 ~ 15	12 ~ 15	24 ~ 30

注)

- (1) 基肥を施用する前に EC を測定し、施肥量を加減する。
- (2) 1 段果房肥大始期に 1 回目の追肥を施す。後は草勢、着果状態によって加減する。1 回の施肥量は窒素で 2 ~ 4kg/10a とする。

抑制栽培 (kg / 10 a)

成分	基肥	追肥	計
窒素	10 ~ 12	15 ~ 17	25 ~ 29
リン酸	18 ~ 22	-	18 ~ 22
カリ	10 ~ 12	15 ~ 17	25 ~ 29

注)

- (1) この栽培型は生育速度が速いため、中～上位段花房が落下し、着果数が減少する傾向がある。草勢に注意し、追肥が遅れないようにする。
- (2) 1 本仕立て整枝では 1 回目追肥を第 1 果房肥大初期とし、速効性の化成肥料と液肥を併用する。
- (3) 連続 2 段摘心栽培は初期生育を旺盛にするため、基肥施用量を多目とする。追肥は遅くても良いが、基本枝の生長点が不揃いになり始めたら施用する。

山間地雨よけ栽培 (kg / 10 a)

成分	基肥	追肥	計
窒素	12 ~ 14	18 ~ 22	30 ~ 36
リン酸	20 ~ 22	5 ~ 7	25 ~ 29
カリ	12 ~ 14	18 ~ 22	30 ~ 36

注)

- (1) 追肥は草勢をみながら行う。
- (2) 第 1 回追肥は 1 段果房の着果後とする。1 回の施肥量は窒素成分で 3 ~ 5kg/10a とする。

#### (2) キュウリ

半促成栽培 (kg / 10 a) 注)

成分	基肥	追肥	計
窒素	20 ~ 22	16 ~ 18	36 ~ 40
リン酸	22 ~ 24	4 ~ 6	26 ~ 30
カリ	18 ~ 20	16 ~ 18	34 ~ 38

- (1) 基肥の施用量は施肥前に EC を測定して加減する。
- (2) 追肥の量、回数は草勢にあわせて施用し、1 回の量は窒素成分で 3kg/10a 以下とする。

抑制裁培 (kg / 10 a)

成分	基肥	追肥	計
窒素	18 ~ 20	12 ~ 14	30 ~ 34
リン酸	18 ~ 20	2 ~ 4	20 ~ 24
カリ	15 ~ 18	8 ~ 10	23 ~ 28

注)

- (1) 施肥前に EC 等を測定し、基肥量を加減する。
- (2) 追肥は、生育の状況を見て行い、1 回の量は窒素成分量で 3kg/10a 以下とし、間隔は 7 ~ 10 日おきとする。

(3) ハウスメロン (春夏作栽培)

(kg / 10 a) 注)

成分	基肥	追肥	計
窒素	10 ~ 14	-	10 ~ 14
リン酸	12 ~ 18	-	12 ~ 18
カリ	10 ~ 14	-	10 ~ 14

- (1) 全量基肥、全層施肥を原則とし約 1 カ月前に施しておく。ただし、砂質土、やせ地では追肥も必要となる。
- (2) 施肥前必ず土壌 EC、pH を測定し、石灰質資材、施肥量を加減する。
- (3) 豚ふん堆肥などを施用する場合は、それに含まれる成分量を差引き、特に窒素過剰とならないようにする。

(4) ナス

半促成栽培 (kg / 10 a) 注)

成分	基肥	追肥	計
窒素	16 ~ 18	16 - 18	32 ~ 36
リン酸	20 ~ 24	2 - 4	22 ~ 28
カリ	16 ~ 18	16 - 18	32 ~ 36

- (1) 一般に多肥傾向であるが、土壌診断によって適正施肥を行う。
- (2) 肥効の安定、追肥の省力化のため緩効性肥料を効果的に使用する。
- (3) 追肥は液肥主体とし、草勢をみながら 10 ~ 14 日ごとに行う。化成肥料の場合は 1 回の量を 3kg/10a 程度までとする。

早熟栽培 (kg / 10 a)

成分	基肥	追肥	計
窒素	20 ~ 24	24 ~ 28	44 ~ 52
リン酸	26 ~ 30	-	26 ~ 30
カリ	20 ~ 24	24 ~ 28	44 ~ 52

注)

- (1) 追肥は窒素とカリを主体とし、1 回の量を窒素として 4kg/10a 程度とする。
- (2) 盛夏期までの追肥は速効性だけでなく、緩効性肥料、有機質肥料を用いるとよい。しかし、9 月以後は速効性主体とする。

(5) スイートコーン (kg / 10 a)

成分	基肥	追肥	計
窒素	18 ~ 21	4 ~ 5	22 ~ 26
リン酸	18 ~ 20	-	18 ~ 20
カリ	18 ~ 21	4 ~ 5	22 ~ 26

注)

- (1) 深根性であり、腐殖に富んで耕土が深く、通気性の良好なほ場が適し、特に砂質土では土づくりに努める。
- (2) 追肥は、本葉 5 ~ 6 枚時に行う。

(6) イチゴ(促成、半促成、株冷半促成、雷照半促成、抑制栽培)

(kg / 10 a) 注)

成分	基肥	追肥	計
窒素	6 ~ 8	-	6 ~ 8
リン酸	10 ~ 12	-	10 ~ 12
カリ	8 ~ 10	-	8 ~ 10

- (1) 施肥前に必ず土壌 PH、EC を測定し、苦土石灰、施肥量を加減する。
- (2) 濃度障害に弱い作物であり、特に冷蔵株は受けやすい。施肥量には十分注意する。
- (3) 追肥は、必要に応じて液肥を中心に行う。また、促成栽培などの追肥は、花芽分化を確認後に行う。

(7) イチゴ(露地栽培) (kg / 10 a)

成分	基肥	追肥	計
窒素	10 ~ 12	3 ~ 5	13 ~ 17
リン酸	12 ~ 14	-	12 ~ 14
カリ	12 ~ 14	3 ~ 5	15 ~ 19

注)

- (1) 施肥量は、施設栽培よりやや多くする。
- (2) 年内に 1 回は追肥(1 回当たり 2kg/100 程度)を行い、根群を発達させ耐寒性を養う。

(8) キャベツ

春初夏まき栽培 (kg / 10 a)

成分	基肥	追肥	計
窒素	12 ~ 14	4 ~ 6	16 ~ 20
リン酸	14 ~ 16	-	14 ~ 16
カリ	12 ~ 14	4 ~ 6	16 ~ 20

注)

- (1) 火山灰土壌のように、リン酸の肥効の劣る畑では、リン酸の施肥量を 20-30 増施する。
- (2) 追肥は結球開始時に 1 回行う。

夏まき栽培 (kg / 10 a)

成分	基肥	追肥	計
窒素	12 ~ 14	4 ~ 6	16 ~ 20
リン酸	14 ~ 16	-	14 ~ 16
カリ	12 ~ 14	4 ~ 6	16 ~ 20

注)

- (1)栽培期間が長いので、追肥は2回程度行う。
- (2) 追肥は結球始めまでに終える。

秋まき栽培 (kg / 10 a)

成分	基肥	追肥	計
窒素	8 ~ 9	12 ~ 14	20 ~ 23
リン酸	16 ~ 18	-	16 ~ 18
カリ	8 ~ 9	12 ~ 14	20 ~ 23

注)

- (1)基肥や、速効性肥料を多く施すと、生育が進みすぎる。翌3 ~ 4月に旺盛な肥効が現われるようにする。
- (2) 追肥は2月中~下旬及び3 ~ 4月に2回の合計3回程度行い、結球開始時までには終える。

(9) ハクサイ(秋まき栽培) (kg / 10 a) 注)

成分	基肥	追肥1回目	追肥2回目	計
窒素	16 ~ 18	2	6	18 ~ 24
リン酸	20 ~ 25	-	-	20 ~ 25
カリ	18 ~ 20	3	4	21 ~ 24

- (1)生育日数の長い中生、中晩生種の場合は施肥量をやや多くする。
- (2) 追肥の1回目は播種後2週間頃、2回目は結球開始期に施用する。
- (3)ホウ素欠乏の発生しやすい作物であり、その恐れのあるほ場ではホウ砂(1kg/10a)、FTE(4 ~ 6kg/10a)などを施用する。

(10) タマネギ  
苗床 (kg / 10 a)

成分	基肥	追肥	計
窒素	12 ~ 14	2 ~ 4	14 ~ 18
リン酸	18 ~ 22	-	18 ~ 22
カリ	12 ~ 14	2 ~ 4	14 ~ 18

注)

- (1)苗床では特にリン酸質肥料が大切で、不足すると葉先が枯れたり、定植後の活着が悪くなる。
- (2)定植5 ~ 7日前にリン酸を液肥で施すと、活着を促す。

貯蔵用秋まき栽培 (kg / 10 a)

成分	基肥	追肥	計
窒素	8 ~ 10	10 ~ 12	18 ~ 22
リン酸	18 ~ 20	-	18 ~ 20
カリ	8 ~ 10	10 ~ 12	18 ~ 22

- 注) (1)追肥は1~2月、3月下旬の2回、又は12月下旬、2月下旬、3月下旬の3回に分けて行う。  
 (2)生育期間が長いので有機質肥料、緩効性肥料を用いるのも有効である。  
 (3)最終追肥が遅いと貯蔵性低下などマイナスの影響が大きい。4月初旬までに終える。  
 (4)2月の窒素切れは抽台を増大させるので注意する。

(11) ダイコン

春まき栽培 (kg / 10 a)

成分	基肥	追肥	計
窒素	10 ~ 12	-	10 ~ 12
リン酸	18 ~ 20	-	18 ~ 20
カリ	8 ~ 10	-	8 ~ 10

- 注) (1)施肥量は栽培期間により加減する。栽培期間が長い場合は緩効性肥料を用いるのも有効である。  
 (2)追肥は、マルチ栽培のため行わない。  
 (3)初期に窒素の肥効を高め、本葉7~8枚までの初期生育を促進する。  
 (4)ホウ素欠乏の発生が懸念されるほ場では、ホウ砂(1kg/10a)、FTE(4~6kg/10a)などを施用する。

夏まき栽培 (kg / 10 a)

成分	基肥	追肥	計
窒素	13 ~ 18	0 ~ 10	13 ~ 28
リン酸	14 ~ 18	-	14 ~ 18
カリ	18 ~ 20	0 ~ 10	18 ~ 30

- 注) (1)マルチ栽培では全量基肥とする。その量は生育状況によって加減する。  
 (2)追肥は間引き後1~2回行い、施肥時期は幼苗期の終わりから生育中期にかけて施すのが効果的である。  
 (3)ホウ素欠乏の発生が懸念されるほ場では、ホウ砂(1kg/10a)、FTE(4~6kg/10a)などを施用する。

秋まき栽培 (kg / 10 a)

成分	基肥	追肥	計
窒素	8 ~ 13	7 ~ 9	15 ~ 22
リン酸	14 ~ 18	-	14 ~ 18
カリ	8 ~ 13	7 ~ 9	15 ~ 22

- 注) (1)追肥は1回日本葉2~3枚時、2回日本葉7、8枚の株定め時に施用する。また追肥の回数、施肥量は草勢によって加減する。  
 (2)肥大期の過剰な追肥は、茎葉の過繁茂や曲がり根を助長する。  
 (3)ホウ素欠乏の発生が懸念されるほ場では、ホウ砂(1kg/10a)、FTE(4-6kg/10a)などを施用する。

(12) ホウレンソウ

春まき、夏まき栽培 (kg / 10 a)

成分	基肥	追肥	計
窒素	10 ~ 12	6 ~ 8	16 ~ 20
リン酸	12 ~ 14	-	12 ~ 14
カリ	8 ~ 10	4 ~ 5	12 ~ 15

注) (1)追肥の1回目は、本葉2~3枚の間引き後に施用(窒素は5kg/10a程度)。その後は生育をみて液肥で施用する。

(2)収穫1週間ほど前に尿素の葉面散布を行うと、葉色が濃くなり光沢を増す。

秋まき栽培 (kg / 10 a)

成分	基肥	追肥	計
窒素	12 ~ 14	8 ~ 10	20 ~ 24
リン酸	12 ~ 14	-	12 ~ 14
カリ	8 ~ 10	6 ~ 8	14 ~ 18

注) (1)春まき、夏まき栽培に準ずる。

(13) ブロッコリー(夏まき栽培)

(kg / 10 a)

成分	基肥	追肥	計
窒素	18 ~ 21	9 ~ 14	27 ~ 35
リン酸	20 ~ 22	-	20 ~ 22
カリ	18 ~ 21	10 ~ 14	28 ~ 35

注) (1)頂花らい専用の卓どり栽培は施肥量、施肥回数とも少なくする。

(2)追肥は頂花らい専用の卓どり栽培で1~2回、側花らいも収穫する中晩生種では2~3回とする。

(3)外葉の大きな充実した株にするため、全期間にわたって肥切れさせないように注意する。

(14) ニンジン(春まき、夏まき栽培)

(kg / 10 a)

成分	基肥	追肥	計
窒素	10 ~ 12	10 ~ 13	20 ~ 25
リン酸	15 ~ 18	-	15 ~ 18
カリ	9 ~ 11	10 ~ 13	19 ~ 24

注) (1)追肥は3回程度にわけて間引き後に行う。その量は草勢によって加減する。

(2)初期生育はきわめて遅いが、後半になると急激な肥大をするので、太り始める頃から十分肥効が高まるような施肥を行う。

#### 4. 花きの施肥

##### 1) 切花類

##### (1) キク

##### 露地ギク

##### ア. 無マルチ栽培

(kg / 10a)

成分	基肥	追肥		計
		1回	2回	
窒素	12 ~ 14	4 ~ 5	4 ~ 5	20 ~ 24
リン酸	12 ~ 14	4 ~ 5	4 ~ 5	20 ~ 24
カリ	12 ~ 14	4 ~ 5	4 ~ 5	20 ~ 24

注) (1) 肥料は緩効性肥料や有機質肥料を主体とする。

(2) 追肥時期は定植後1ヵ月頃とし、2回目は生育をみて施肥時期を決定する。

##### イ. マルチ栽培

(kg / 10a)

成分	基肥	追肥		計
		1回	2回	
窒素	17 ~ 20	-	-	17 ~ 20
リン酸	17 ~ 20	-	-	17 ~ 20
カリ	17 ~ 20	-	-	17 ~ 20

注) (1) 肥料は緩効性肥料や有機質肥料を主体とする。

(2) 追肥は生育をみて適宜施す。

##### 施設ギク

##### ア. 年末出し電照栽培

(kg / 10a)

成分	基肥	追肥			計
		1回	2回	3回	
窒素	15 ~ 17	3 ~ 4	3 ~ 4	1 ~ 2	22 ~ 27
リン酸	22 ~ 24	1 ~ 2	1 ~ 2	1 ~ 2	25 ~ 30
カリ	14 ~ 16	3 ~ 4	3 ~ 4	1 ~ 2	21 ~ 26

注) (1) 肥料は緩効性肥料や有機質肥料を主体とする。

(2) 追肥時期は整枝後伸長の盛んな頃(9月中旬)、消灯後の花芽分化期頃(10月中旬頃)とし、3回目は生育をみながら発蕾時に行う。

##### イ. 夏秋ギク電照栽培

(kg / 10a)

成分	基肥	追肥		計
		1回	2回	
窒素	14 ~ 16	4 ~ 6	4 ~ 6	22 ~ 28
リン酸	21 ~ 24	4 ~ 6	4 ~ 6	29 ~ 36
カリ	20 ~ 22	4 ~ 6	4 ~ 6	28 ~ 34

注) (1) 肥料は緩効性肥料や有機質肥料を主体とする。

(2) 追肥は整枝時と花芽分化前に行う。



ウ．小ギク

(kg / 10a)

成分	基肥	追肥		計
		1回	2回	
窒素	11 ~ 15	3 ~ 4	4 ~ 5	18 ~ 24
リン酸	11 ~ 15	3 ~ 4	4 ~ 5	18 ~ 24
カリ	11 ~ 15	3 ~ 4	4 ~ 5	18 ~ 24

- 注) (1) 肥料は緩効性肥料や有機質肥料を主体とする。  
 (2) 追肥時期は定植後1ヵ月頃に、2回目は生育をみて適宜行う。

(2) カーネーション

(kg / 10a)

成分	基肥	追肥		計
		1回あたり	計	
窒素	12 ~ 15	3 ~ 5	30 ~ 50	42 ~ 65
リン酸	30 ~ 32	5 ~ 7	20 ~ 25	50 ~ 57
カリ	12 ~ 15	4 ~ 7	40 ~ 70	52 ~ 85

- 注) (1) 基肥施用前に必ず土壌分析を行い、施肥量を決める。  
 (2) 追肥は1ヵ月に1回程度液肥主体で施す。

(3) 宿根カスミ草

(kg / 10a)

成分	基肥	追肥		計
		1回	2回	
窒素	12 ~ 16	-	-	12 ~ 16
リン酸	10 ~ 15	-	-	10 ~ 15
カリ	10 ~ 12	-	-	10 ~ 12

- 注) (1) 肥料は緩効性肥料や有機質肥料を主体とする。  
 (2) 追肥は生育をみながら適宜施す。  
 (3) 肥料が直接根にふれるといたみやすいので植え付ける畦の下に施し、10 ~ 20cm程度土をかけ、その上に植える。

(4) スターチス

スターチス・シヌアータ

(kg / 10a)

成分	基肥	追肥		計
		1回	2回	
窒素	5 ~ 6	3 ~ 4	-	8 ~ 10
リン酸	12 ~ 15	-	-	12 ~ 15
カリ	5 ~ 6	3 ~ 4	-	8 ~ 10

- 注) (1) 窒素肥料の多用は避ける。

スターチス・ハイブリッド系

(kg / 10a)

成分	基肥	追肥		計
		1回	2回	
窒素	15 ~ 20	-	-	15 ~ 20
リン酸	15 ~ 20	-	-	15 ~ 20
カリ	15 ~ 20	-	-	15 ~ 20

- 注) (1) 肥料は有機質肥料を主体とする。  
 (2) 追肥は生育をみながら薄い液肥を適宜施す。

(5) ストック (kg / 10a)

成分	基肥	追肥		計
		1回	2回	
窒素	15 ~ 18	5 ~ 8	-	20 ~ 26
リン酸	20 ~ 25	-	-	20 ~ 25
カリ	15 ~ 18	5 ~ 10	-	20 ~ 28

- 注) (1) 肥料は緩効性肥料や有機質肥料を主体とする。  
 (2) 追肥は定植後 3 ~ 4 週間頃に株間に施し、その後は葉色をみながら 1 ~ 2 回施用する。

(6) トルコギキョウ (kg / 10a)

成分	基肥	追肥		計
		1回	2回	
窒素	10 ~ 12	4 ~ 6	-	14 ~ 18
リン酸	20 ~ 22	1 ~ 3	-	21 ~ 22
カリ	15 ~ 18	3 ~ 5	-	18 ~ 23

- 注) (1) トルコギキョウは濃度障害を受けやすいので、1回の施肥量が多くなりすぎないように注意する。  
 (2) 追肥は生育をみながら適宜施す。

(8) シンテッポウユリ (kg / 10a)

成分	基肥	追肥		計
		1回	2回	
窒素	10 ~ 15	8 ~ 10	8 ~ 10	26 ~ 35
リン酸	15 ~ 20	-	-	15 ~ 20
カリ	10 ~ 15	8 ~ 10	8 ~ 10	26 ~ 35

- 注) (1) 追肥は定植後 1 ヶ月おきに 2 ~ 3 回施す。

2) 球根育成栽培

(1) チューリップ (kg / 10a)

成分	基肥	追肥		計
		1回	2回	
窒素	8 ~ 12	4 ~ 8	-	12 ~ 20
リン酸	12 ~ 20	-	-	12 ~ 20
カリ	11 ~ 15	6 ~ 14	-	17 ~ 29

- 注) (1) 肥料は緩効性肥料や有機質肥料を主体とする。  
 (2) 品種、土壌条件等を考慮して施肥量を適宜加減する。  
 (3) 肥沃な土壌は窒素の追肥時期を早める(年内追肥)。

(3) スイセン (kg / 10a)

成分	基肥	追肥		計
		1回	2回	
窒素	8 ~ 10	5 ~ 7	-	13 ~ 17
リン酸	13 ~ 15	3 ~ 5	-	16 ~ 20
カリ	8 ~ 12	10 ~ 12	-	18 ~ 22

- 注) (1) 追肥は、12 月中旬 ~ 1 月末までに施用する。

## 5. 果樹の施肥

### (1) ブドウ

#### デラウェア・巨峰（超早期加温～普通加温）

成 分		窒 素	リン酸	カ リ	石 灰	苦 土
施肥量 (kg / 10a)		15 ~ 20	10 ~ 15	15 ~ 20	40 ~ 50	15 ~ 20
施 肥 割 合	10月中～下旬	50(%)	80(%)	50(%)	100(%)	80(%)
	被覆直前	10	-	10	-	-
	開花始期	10	-	10	-	-
	開花後1カ月	10	-	10	-	-
	収穫後	20	20	20	-	20

#### デラウェア・巨峰（準加温～無加温）

成 分		窒 素	リン酸	カ リ	石 灰	苦 土
施肥量 (kg / 10a)		10 ~ 15	10 ~ 15	10 ~ 15	40 ~ 50	10 ~ 15
施 肥 割 合	10月中～下旬	50(%)	80(%)	50(%)	100(%)	80(%)
	被覆直前	10	-	10	-	-
	開花始期	10	-	10	-	-
	開花後1カ月	10	-	10	-	-
	収穫後	20	20	20	-	20

- 注) (1) 樹齢や前作の生育状況を考慮し、施肥量を加減する。  
 (2) 追肥は生育状況（新梢の伸び、葉色など）をよく観察し、量を加減する。  
 (3) 有機物の種類、施用量によっては、窒素施肥量を減らす。  
 (4) 土壌 pH の高い園（6.5 以上）では、石灰の施用を控えた上で苦土質肥料を施用する。  
 (5) 苦土欠発生園では礼肥の量を増やす。

### (2) カキ

#### 西 条

#### ア．未成園の標準施肥量

(kg / 10a)

成 分	窒 素	リン酸	カ リ	石 灰	苦 土
幼木（1～6年生）	3～7	2～5	3～7	20～30	7～10
若木（7～13年生）	8～14	6～9	8～14	40～50	15～20

- 注) (1) 植栽密度は70～80本/10aの計画密植  
 (2) 施肥割合は成木に準ずる

イ．西条（成園、目標収量1.8～2.0t / 10a）

成 分		窒 素	リン酸	カ リ	石 灰	苦 土
施 肥 量 (kg / 10a)		15 ~ 20	10 ~ 15	15 ~ 20	40 ~ 50	15 ~ 20
施 肥 割 合	11月下～2月上旬(基肥)	70(%)	100(%)	60(%)	100(%)	100(%)
	3月下～4月上旬(芽出肥)	15	-	10	-	-
	6月下～7月上旬(夏肥)	-	-	20	-	-
	10月上旬(秋肥)	15	-	10	-	-

- 注) (1) 基肥に堆きゅう肥を用いる場合は年内に施用を終わる。成分の不足分は2月上旬までに調節する。
- (2) 夏肥は生理落果の時期と重なりやすいので、窒素肥料の多用を避ける。
- (3) 乾燥鶏ふんを施用する場合は、9月下旬～10月上旬に行う。施用量は100～300kg / 10a程度とし、基肥で成分の調節を行う。

富 有（成園、目標収量2.3～2.5t / 10a）

成 分		窒 素	リン酸	カ リ	石 灰	苦 土
施 肥 量 (kg / 10a)		15 ~ 20	10 ~ 15	15 ~ 20	40 ~ 50	15 ~ 20
割 合	12月～2月上旬(基肥)	70(%)	100(%)	60(%)	100(%)	100(%)
	6月下～7月上旬(夏肥)	15	-	30	-	-
	10月上～中旬(秋肥)	15	-	10	-	-

- 注) (1) 西条(成木)に準ずる。

(3) ナ シ

二十世紀（ゴールド二十世紀）

ア．未成園（窒素施用量）

(g / 樹)

1 年 生	2 年 生	3 年 生	4 年 生	5 年 生
60 ~ 80	130 ~ 160	190 ~ 240	260 ~ 320	320 ~ 400

- 注) (1) リン酸とカリの施用量は、窒素の70～80%とする。
- (2) 10aあたりに換算した施用量が、成園の施用量に達した時はそれ以上増やさない。

イ．成園

成 分		窒 素	リン酸	カ リ	石 灰	苦 土
施 肥 量 (kg / 10a)		15 ~ 20	10 ~ 12	15 ~ 18	40 ~ 50	15 ~ 20
施 肥 割 合	11～12月	40(%)	100(%)	40(%)	100(%)	100(%)
	2月上旬	20	-	10	-	-
	6月上～中旬	15	-	30	-	-
	9月中旬	15	-	10	-	-
	10月上旬	10	-	10	-	-

- 注) (1) 11～12月の肥料は有機質肥料主体とする。
- (2) 2月上旬は速効性肥料を用いる。
- (3) 6月上～中旬の夏肥は窒素過多になると果実の品質が低下するので、葉色から判断して施用量を決める。

幸水・豊水

成 分		窒 素	リン酸	カ リ	石 灰	苦 土
施肥量 (kg / 10a)		20 ~ 25	15 ~ 20	15 ~ 20	40 ~ 50	15 ~ 20
施 肥 割 合	11 ~ 12 月	40(%)	100(%)	40(%)	100(%)	100(%)
	2 月 上 旬	20	-	20	-	-
	6 月 上 ~ 中 旬	20	-	20	-	-
	9 月 中 旬	10	-	10	-	-
	10 月 上 旬	10	-	10	-	-

- 注) (1) 幸水は他の品種と比較し根が弱いため、収穫後の礼肥は2回程度に分けて施用する。  
 (2) 他は二十世紀に準ずる。

(4)ク リ

樹齢と施肥量

(kg / 10 a)

樹 齢	窒 素	リン 酸	カ リ
2 ~ 3 年	3 ~ 4	1 ~ 2	2 ~ 3
4 ~ 5 年	7 ~ 8	3 ~ 4	4 ~ 5
6 ~ 7 年	11 ~ 13	5 ~ 6	6 ~ 8
8 ~ 9 年	15 ~ 17	7 ~ 9	9 ~ 10
10 ~ 11 年	17 ~ 19	9 ~ 10	10 ~ 12
12 年 以 上	19 ~ 21	11 ~ 13	13 ~ 14

施肥割合

施 肥 時 期	窒 素	リン 酸	カ リ
12 ~ 3 月 (基肥)	60(%)	100(%)	60(%)
6 月 中 ~ 下 旬 (実肥)	20	0	30
9 月 下 ~ 10 月 上 旬 (礼肥)	20	0	10

- 注) (1) 苦土石灰を2年に1回50 ~ 100kg程度施す。  
 (2) 基肥に有機質肥料を施す場合は年内に行う。  
 (3) 実肥、礼肥は樹勢によって加減する。

(5)イチジク (蓬萊柿)

成 分		窒 素	リン酸	カ リ	石 灰	苦 土
施 肥 量 (kg / 10a)		8 ~ 10	8 ~ 12	10 ~ 15	80 ~ 100	15 ~ 20
割	12 月 (基肥)	40 ~ 50(%)	70(%)	30(%)	100(%)	100(%)
	6 月 中 旬 (追肥)	-	-	40	-	-
	7 月 上 旬 (追肥)	20	10	10	-	-
合	9 月 上 旬 (礼肥)	30 ~ 40	20	20	-	-

- 注) (1) 生育期間中の肥効を一定にするため、基肥は有機質肥料主体とする。  
 (2) 水田転換園では根が浅く、梅雨期は濃度障害を受けやすいので、追肥は慎重に行う。

(6) ウ メ

成 分		窒 素	リン酸	カ リ	石 灰	苦 土
施 肥 量 (kg / 10a)		15 ~ 20	10 ~ 15	15 ~ 20	30 ~ 40	5 ~ 10
割	11 ~ 1 月	60(%)	100(%)	40(%)	100(%)	100(%)
	4 月中 ~ 下旬	10	-	40	-	-
合	7 月 上 旬	30	-	20	-	-

注) (1) リン酸の施用量は11～1月60%、4月中～下旬20%、7月上旬20%としてもよい。

6 . 茶の施肥

成木園

成 分		窒 素	リ ン 酸	カ リ	石 灰
施肥量 (kg / 10 a)		55	18	28	
施	秋肥 9月上～中旬)	30(%)	50(%)	50(%)	100(%)
肥	春肥 3月上～下旬)	30	50	50	-
割	夏肥 (1茶後)	20	-	-	-
合	夏肥 (2茶後)	20	-	-	-

注) (1) 施肥量は樹齢、土壌条件、製品の種類などによって変える。

(2) 秋肥及び春肥は有機質肥料を主体にする。

(3) 春肥の窒素施用量のうち1/3程度を4月上・中旬に芽出し肥として分施してもよい。

(4) 1回の窒素施用量は15kg以下とする。

(5) 施肥は肥料散布機等を用いて畝間全体に行い、クランクカルチ等により攪拌、耕耘する。

幼木園

年 次	1	2	3	4	5	6	7
成木園に対する割合(%)	20	50	60	70	80	90	100

注) (1) 定植初年目の1回目の追肥は定植50～60日後に行う。1回の施肥量は窒素3kg、リン酸、カリはそれぞれ1.5～2kgとし、9月上旬まで毎月1回施用する。

(2) 2年目以後の施肥も初年目に準じて行う。